

男子部中等科・高等科

「とことん知りたい男子部用語」

櫻井 ゆり

自由学園では、幼児生活団、初等部、女子部、男子部、最高学部と、それぞれの部で、さまざまな用語が使用されている。創立者であるミセス羽仁、ミスタ羽仁の著書の中の言葉からなる全ての部に共通の言葉もあれば、誰がいつ使い始めたかわからない各部独特の用語もある。男子部でも寮生が制作、不定期に発行する「東天寮だより」の冊子の中で、その年流行した言葉とともに、それらが男子部用語として毎年のように取り上げられ紹介されて来た。そこには、男子部独特の用語に対する男子部生の興味と誇りが垣間見える。

今回の学業報告会は、異学年が集まる主体的な学習ということで、男子部の生活の中の言葉の深い学習が思い浮かんだ。そこで「東天寮だより」の特集とは違う客観的な視点で、男子部で普段使用されている言葉、その意味をインタビュー等で採集し、冊子を作成することにした。準備期間中には日本経済新聞社からのレクチャー講師招聘、朝日新聞社東京本社見学も盛り込み、報告会当日には、希望した13名の生徒がパワーポイントを使った報告とポスター展示発表をし、完成した冊子を保護者や生徒に配布した。

I. はじめに

今回、男子部学業報告会で、初めての異学年同士の取り組みであったため、どんなメンバーが集まるのか、誰がリーダーになるのか、パソコンの初心者ばかりだったらどうするか、生徒にすべて任せて期日どおりに冊子が完成するのかなどなど、大きな不安があった。

しかし、実際に募集が始まるとぞくぞくと「先生よろしくお願ひします」「ぼくこのテーマやってみたいです」などの声かけをしてくれる生徒が続出し、あっという間に応募が10人を越え満員御礼という状況になった。最終的に集まった生徒は13人。高等科1年が2人、中等科3年が7人、中等科2年が4人というメンバーだった。

10月22日(土)初めての顔合わせがあり、代表リーダーに亀山、連絡係根岸と、高等科1年の2人に決まった。パソコンを使った入力、編集であると伝えると、Word初心者が多いことがわかったが、おおいにその話題で盛り上がり、生徒たちが楽しみにしている様子が伺われた。後は、学業報告会準備期間を待つのみとなった。

II. 準備期間

11月4日(水)

準備期間中の使用教室は、東教室。映画「舟を編む」を全員で鑑賞し、辞典の制作手順を理解した。その上で第1回編集会議を開いた。

- ①冊子のタイトル決め②対象読者の決定
- ③発行部数の決定 B5サイズで400冊
- ④用例採集カードの記入練習

11月5日(木)

用例採集分担を決め、一日中各自、用例採集に出かける。午後、係の生徒3人と東久留米駅前の彩玄堂に表紙の紙の購入にでかける。男子部カラーの濃い青色を選定、注文。

11月6日(金)

用例採集の続き。11時から日本経済新聞社の金東洋氏(男子部58回生)来校。東教室で「ミクロの視点、マクロの視点、メタな視点」「周辺情報集にするのか、用語の辞書にするのか、どのように東天寮だよりとは違うものにするのか、ぶれずに決める」「1冊の本を企画、編集、印刷、販売の広報活動まで、最初から最後まで制作に関わる編集という仕事は、やりがいがある。」など

印象に残る言葉を頂く。市岡理事長も途中参加。金氏には昼食時に全員にもお話を頂く。

11月7日(土)

400枚以上の用例採集カードの中から、冊子に掲載収録語を選定。入力準備としてパソコンの操作の練習。大変だったのが、パソコン環境がばらばらだったこと。高校生2人が私物のMacbook、中等科生の使用した学校貸与パソコンが、Surface(キーボードタブレット一体型)Windows仕様ということで共にWordを使用するといっても編集時の困難が予想された。と言っても、中3、中2は初めて学校貸与パソコンのSurfaceを触るのが楽しくてたまらない様子。

11月9日(月)

朝から、データ入力作業に全員が入る。その際、用例採集カードをアイウエオ順に並べて各自に割り振った。他人が書いた原稿を読んで入力するので、最初は四苦八苦。特に縦書き、3段組みという組み版入力と、文字と記号、見出し語と本文とのフォントの違いなど、細かいルールに従った入力が難しい。しかし、生徒同士が教えあって、またたく間に入力スピードが上がってきた。

11月10日(火)

データを印刷し初校を作成、全員で共有して校正の赤ペンを入れ、改訂作業、再校を印刷。その際データ保存に失敗、入力し直す場面もあった。時間切れとなり、リーダーが、寮に持ち帰って最終編集をする。タイトルは全員の投票で「平成27年度男子部用語集」に決定。当日の記念講堂での報告のために、パワーポイントでのスライド作成を開始。

11月11日(水)

午前中、最終校を印刷。リーダーと確認して印刷原稿マスターを作成。午後印刷開始したが、教師会のため、入室禁止で生徒は解散。

11月12日(木)

原稿印刷する組と、東教室でそれを折る組とに別れて活動。11時に中断しておにぎりを食べて学校出発。12時45分から朝日新聞東京本社見学。編集部、印刷梱包工場を見学し14時30分に終了。学園に帰校したのが16時。

解散し、製本に入る。夕食後も東教室で製本。20時すぎに完成。ポスター展示表も作成。

11月13日(金)

終日清掃。ポスターと展示物(用例採集カード、初校、再校、最終校原稿)を記念講堂2階に設置。解散後、報告の練習。

11月14日(土)

学業報告会当日は、パワーポイントによる全員での報告。展示室で、父母生徒に冊子を配布した。

Ⅲ. 学業報告会を終えての振り返り

参加した生徒に「なぜこのテーマを選んで参加したのか」と聞くと、「男子部の言葉に興味があったから」「どんどん言葉も移り変わって消えてしまう。記録に残したいから」など明確な答えが多かった。また、準備期間の過ごし方の感想を聞くと「あっという間に感じた」「集中して過ごせた」「楽しかった」「また改訂版を出したい」などと達成感を感じた意見が多く、ゆえに「あまりにも集中しすぎて、終わってみるとかなり疲れていた」というリーダーの言葉も、もともとと思われる。反省としては、冊子配布後、誤字や脱字等のご指摘と、改訂版が出るのをいずれ楽しみにしているといった温かいお許しの声をいただいた。

報告会の数日後、届いた高等科3年生の父母のお葉書の一節をご紹介します。「用語集の中から学校や寮での生活を想像することができました。今まで耳ではなんとなく聞いていたけれど、何だろう?と思っていたことが、6年目になって今回の用語集で解明!嬉しく、時々開いては男子部生の様子を思い浮かべようと思います。」

最後に、準備期間中にお忙しい中、講師としてお話しに来てくださった金東洋氏(日本経済新聞社 日経デジタル編成局 男子部58回生)や金氏を紹介してくださった市岡理事長に深く感謝を申し上げます。

Ⅳ. 参考文献

- (1) 羽仁もと子著作集「半生を語る」婦人之友社
- (2) 羽仁もと子著作集「子供読本」婦人之友社
- (3) 羽仁もと子著作集「自由・協力・愛」婦人之友社

- (4) 羽仁もと子著作集「教育30年」婦人之友社
- (5) 「自由学園創立80年史」自由学園出版局
- (6) 「自由学園とは？100問100答」自由学園広報室
- (7) 「自由学園の歴史Ⅰ・Ⅱ」婦人之友社
- (8) 「男子部新年作成資料Ⅰ・Ⅱ」100年史準備委員会
- (9) 「学園新聞」自由学園出版局